# **テーマ：「広がる格差の現状と、その処方箋」**

メイン記事：ジワジワ「格差社会」所得格差、過去最大に

サブ記事1：NHK「貧困女子高生」報道へのバッシングは、問題の恐るべき本質を覆い隠した

サブ記事2：[ジニ係数とは・何か | Sustainable Japan](https://sustainablejapan.jp/2017/05/08/%E3%82%B8%E3%83%8B%E4%BF%82%E6%95%B0/26708)

＜要旨＞

　日本において所得格差を示す指標であるジニ係数が過去最大になった！

原因⇒年金で生計を立てる高齢者世帯の増加

　　　非正規労働者の存在

対策⇒所得の再分配の強化、非正規労働者の賃金底上げ

僕は元々南北問題を知って貧困について考えるようになり、格差問題に強い関心がありました。世界的に見ると、先進諸国のGDP成長率は0近づいており、上位8人の大富豪の資産が下位36億人の所得の合計（約48兆7000億円）に達するというのが今の経済社会の現状です。社会情勢が不安定になり資本主義の末期と呼ばれる現代において、格差問題は最も差し迫った問題だと思います。

この問題に関して僕達若い世代は深刻な影響を受けています。僕達の世代はこれから稼いで生きていかなければなりません。ですがGDP成長率1パーセント程度で急激に賃金が上がる見込みはありません。そんな中、国の財政は赤字で政府支出は増える一方です。僕たちはけして高くない賃金で国の支出を支えなければならず、非常に厳しい状況に置かれています。そこでさらに格差が拡大していくというのは、例えるならばボコボコにされて足元もおぼつかないフラフラなボクサーにとどめの右ストレートをお見舞いするようなものです。

高齢者も貧しく若者も貧しいというなら、お金はいったい誰の元にあるのでしょうか、このような現状を打破していく解決策はあるのでしょうか、そもそもなんでこんな状況になってしまったのでしょうか？

これらの疑問に答えるべく今回は取り組んでいきたいと思います。

# 1.日本の格差の現状

■2013年、格差を表す数値（世帯ごと）ジニ係数が過去最大の0.574ポイント（再分配前）

＊ジニ係数とは？

　・イタリアの経済学者ジニが考案した所得の格差を表す数値

　・0～1の間の値を取り、数値が1に近づくほど所得の偏りを表す

→世帯ごとの平均所得収入が減っているにもかかわらず再分配後のジニ係数が横ばいなのは、低所得者層の増加を意味する

ｐｗ：日本のジニ係数の推移

ｐｗ：ローレンツ曲線

■六人に一人の子供が相対的貧困

＊相対的貧困とは？

　生きていくのにギリギリなお金しか持っていないのは絶対的貧困。それに対し、ある社会において平均的な暮らしを送ることが出来ないのが相対的貧困。

絶対的貧困：最低限の生活をも営むことが出来ないような状態

相対的貧困：年間の可処分所得が中央値の半分を下回っている状態

ｐｗ：六人に一人の子供が相対的貧困

ｐｗ：相対的貧困率と中央値の推移

# 2.拡大する格差の問題点の考察

■世代が下がるごとに格差が拡大する可能性がある

　貧しい家庭に生まれた子供は十分な教育を受けられず、待遇の良い仕事に就けない可能性が高まることによって貧困の世代間連鎖が生じる。その間格差是正が行われなければ、資本主義の富める者はより富むという基本ルールが作用し貧しいものはより貧しくなっていくという可能性が考えられる。

■機会の不平等

　裕福な家庭に生まれるか貧しい家庭に生まれるかによって生まれた時点で良い教育を受けられるかが決まり、いまだ学歴社会の色が濃い日本においては結果的にその人の人生が決まってしまう。

ｐｗ：各国の教育機関への公的支出の割合

■テロが勃発する原因になりうる、社会情勢が悪くなる

　・ヨーロッパの職に就けない若者がISに加担してしまうという現状がある。日本でも格差が拡大し、不満を抱えた人がテロを起こしてしまうかもしれない。

　・歴史的にみると経済的に問題を抱えた国は戦争をその解決手段にしてきた。保護主義、自国第一主義が台頭してきている現在の情勢は第一次世界大戦前に似ている。

# 3.格差が広がった背景

■金融ビッグバン

・1995年頃まで長い間金融市場で続いてきた規制を緩和または撤廃することによって競争が激化

　→自由競争の先駆けに

・自由競争のメリットデメリット

　電話料金、電気料金、国内航空運賃など様々なサービスの料金が下がる一方で、企業は淘汰され雇用が減少する。経済原論の考えにのっとれば労働者賃金は下がる傾向になる。

　→失業者増加。低賃金労働者増加。一方でモノ・サービスは安くなる

■小泉政権下での構造改革

・トリクルダウン論、財務相：竹中平蔵

ｐｗ：画像

・労働者派遣法改正

　→正社員の6割の賃金で働く派遣労働者＝低賃金労働者の増加

ｐｗ：正社員と派遣社員の比率

ｐｗ：平均月収

■企業の内部留保

・企業がお金を貯めこんでいて、安定した経済成長の見通しがつかないため投資に回さない

　→労働者の賃金が増えない

ｐｗ：企業の内部留保の推移

# 4.格差の広がる世界

■アメリカの現状

・金持ちの住む町、ジョンズクリーク市

■世界先進諸国のジニ係数

ｐｗ：国別ランキング

# 5.格差への処方箋の考察

■同一労働同一賃金の実現

・均質、等量の労働に対しては、労働者の性別、年齢、人種などの区別なしに同じ額の賃金を支払うべきであるとする原則

→派遣労働者の賃金を正社員の賃金に近づける

■所得の再分配

・累進課税とタックスヘイブン

■地域通貨

・エンデの遺言

『私が考えるのは、もう一度貨幣を、『実際になされた仕事や物の実体に対応する価値』として位置付けるべきだということです。そのためには現在の貨幣システムの何が問題で、何を変えなくてはならないかを皆が真剣に考えなければならないでしょう。
人類がこの惑星上で今後も生存できるかどうかを決める決定的な問いだと私は思っています。重要なポイントは、例えばパン屋でパンを買う購入代金としてのお金と株式取引所で扱われる資本としてのお金は2つの異なった種類のお金であるという認識です。』

　『今日のシステムの犠牲者は、第三世界の人々と自然に他なりません。
このシステムが自ら機能するために、今後もそれらの人々と自然は容赦なく搾取され続けるでしょう。
このシステムは消費し、成長し続けないと機能しないのですから。成長は無からくるのではなく、どこかがその犠牲になっているからです。
歴史に学ぶ者なら誰でもわかるように、理性が人を動かさない場合には、実際の出来事がそれを行うのです。
私が作家として、この点でできる事は、子孫達が同じ過ちを犯さないように考えたり、新たな観念を生み出すことなのです。そうすれば、この社会は否応なく変わるでしょう。
世界は必ずしも滅亡するわけではありません。
しかし、人類はこの先何百年も忘れないような後遺症を受けることになるでしょう。
人々はお金を変えられないと考えていますが、そうではありません。
お金は変えられます。
人間が作ったのですから。』

・ゲゼルの可能性

『私が知る限り、それはシルビオ・ゲゼルから始まりました。
そのことを真剣に考えた最初の一人です。ゲゼルは、『お金は老化しなければならない』というテーゼを立てました。さらに「お金は経済活動の最後のところでは、再び消え去るようにしなければならない」とも言っています。つまり、例えて言うならば、血液は骨髄で作られて循環し役目を終えれば排泄されます。循環することで、肉体は機能し健康は保たれているのです。お金も経済という有機組織を循環する血液のようなものだと主張したのです。』

＜ミヒャエル・エンデ＞

以上<http://rothschild.ehoh.net/material/animation_03.html>から引用

# 6.ニュース深読みの感想

　何を事実とするのかによって資料の見せ方が変わってくることに気づいた。また本当のことを知るには公表されている数値の裏まで読み取る力が必要であると気づいた。もっといろいろな数値のことを知って経済分析の力を養うとともに、行き詰っている経済の解決策についてもっと具体的に考えられるよう勉強していきたい。

参考文献：世界から格差がなくならない本当の理由　池上彰著　SB新書　他